

大学の世界展開力強化事業(2020年度選定) 山口大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2020年度・(タイプA①))

アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム

【交流推進事業の概要】

＜事業内容＞

日本とケニアの獣医師養成教育の交流プログラム

ワンヘルス (ヒト、動物、環境の健康)
感染症の問題解決は世界的な課題

遠隔システムの導入 (学部、大学院)

共通講義の実施、単位の相互認定 (両国)

人獣共通感染症 食品由来感染症
動物の感染症 新興・再興感染症

派遣による交流

学部学生：短期派遣 (2週間程度)

国際交流によるグローバル感覚の取得 (両国)

実習 (応用・臨床) 単位の相互認定 (両国)

大学院生：長期派遣 (1か月-3か月程度)

フィールドを対象とした学術研究 (ケニア)

感染症分野の最先端研究 (日本)



公衆衛生の実践

家畜衛生の実践

食料資源の確保

感染症対策には各地域に特有の課題が存在

感染症対策に貢献する獣医師の役割は大きい

企業等によるインターンシップ

山口県、国内の企業、衛生研究所等の公的機関、動物病院等への訪問・体験学習 (日本)

ケニア医学研究所、ケニア国際畜産研究所、動物病院等への訪問・体験学習 (ケニア)

アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム

【交流プログラムの概要】

本事業は、本学共同獣医学部とケニアのナイロビ大学獣医学部の連携を軸に、アジア・アフリカにおける獣医学教育・研究の連携を進展させ、相互交流によりグローバルな視点から学ぶことで、ヒト、動物、環境の健康(One Health)に関する問題のうち、特に重要な「感染症」に焦点を絞り、当該分野に貢献する獣医師の養成プログラム構築を目指す。

【本事業で養成する人材像】

獣医師の活躍の場は広く、公衆衛生・家畜衛生獣医師、臨床獣医師、研究者、教員等、多岐にわたるが、いずれの職種においても、ヒト・動物の感染症対策を基盤としたOne Healthに関する知識、技量は基本となる。そこで、本事業による教育プログラムで身につけた知識、技術、人的ネットワークを基に、獣医師の専門性を活かし、グローバルな視点からOne Healthの実践に貢献できる人材を育成する。

特に、動物由来の新興感染症や家畜の感染症を対象とした研究者を志す獣医学生を積極的に育て、日本・アフリカの両国において、実験室における基礎・応用研究から野外でのフィールドワークまで幅広い視点で感染症対策に貢献できる人材育成を目指す。

【本事業の特徴】

- ・遠隔システムを利用した共通講義・グループディスカッション
- ・学部生・大学院生及び若手教員の人的交流、両大学の施設利用による実習
- ・協力機関や企業等におけるインターンシップや体験活動
- ・単位の相互認定や共通の成績管理の実施

【交流予定人数】

		2020	2021	2022	2023	2024
派遣	実際に渡航する学生	0	6	6	6	6
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	10	10	10	10
受入	実際に渡航する学生	0	6	6	6	6
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	10	10	10	10

1. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【山口大学】

【事業の名称】(採択年度 令和2年度 タイプA)

アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈2021年3月 キックオフシンポジウム〉

本事業の初年度にあたる令和2年度においては、次年度から学生交流を推進するためのカリキュラムとなる「獣医国際感染症学」の設置、各種委員会の設置及び遠隔講義システムを導入し、事業推進のための体制を整備した。

また、本事業専用のウェブサイトの開設及びパンフレットを作成し、学内外への情報発信を行ったほか、令和3年3月にはキックオフシンポジウムを開催した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生の派遣は令和3年度から開始するため、令和2年度においては次年度の募集に向けての募集資料の作成を行った。

○ 外国人留学生の受入

外国人留学生の受入は令和3年度から開始するため、令和2年度においては次年度の募集に向けて、ナイロビ大学に同大学の学生に対して本事業の趣旨等の周知依頼を行った。

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	0	0
学生の受入	0	0

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

アジア・アフリカで問題となる感染症に焦点を当てた「獣医国際感染症学」の開設にあたり、各種委員会を設置し、事業推進のための体制整備を行った。

- ・事業推進委員会 : 事業の進捗状況の管理に関することなどの審議を行う
- ・プログラム運営委員会 : カリキュラムの内容、成績評価及び単位認定等に関する審議を行う
- ・外部評価委員会 : 外部有識者で組織し、プログラムの評価・改善に向けた提言を行う
- ・自己点検評価委員会 : 本学の教員・学生で組織し、プログラムの評価・改善に向けた提言を行う

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・留学危機管理マニュアルに基づく危機対策本部要員用のチェックリストを作成し、危機発生時に適切な対応が出来る状態を実現した。
- ・海外派遣システムを構築し、危機発生時に学生の渡航状況を迅速に把握することが可能となった。



■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- ・日本語・英語の2言語に対応した専用ウェブサイトの立ち上げ
- ・広報活動用のパンフレットの作成



〈ケニアでの調査・研究活動:これまでの実績〉

■ グッドプラクティス等

同事業キックオフシンポジウムを令和3年3月に開催した。本シンポジウムでは、オンラインで参加したナイロビ大学獣医学部の担当教員から同学部の紹介があったほか、アフリカで約40年間にわたって獣医師として診療・研究活動を続けている神戸俊平氏(ナイロビ在住)による特別講演を実施し、シンポジウム参加者に対して現地の文化的背景を理解することの大切さを伝えるとともに、参加した学生等に対して現地での教育・研究活動などへの積極的な参加の意識醸成を図ることが出来た。

2. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【山口大学】

【事業の名称】(採択年度 令和2年度 タイプA)

アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈「獣医国際感染症学」受講画面〉

「獣医国際感染症学」受講開始

- ・日本とアフリカにおける公衆衛生、家畜衛生、人獣共通感染症などを学ぶ「獣医国際感染症学」を開設した
- ・山口大学・ナイロビ大学双方の教員による英語での講義をオンデマンドで実施した
- ・山口大学では19名、ナイロビ大学では8名の学生が受講した

【成果】

- ・相互の教員の講義から、自国での通常の授業等では学ぶことがなかった現地の話を聞くことが出来た
- ・双方の学生が相互の国における感染症の現状、課題を把握し、One Health問題の対策を考えることで、次年度派遣／受入時に取り組むテーマが明確となった

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

○ 外国人留学生の受入

→ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、ともに中止

代替として、**課題解決力醸成ワークショップを開催**

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	16	19
学生の受入	16	8

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

学生交流に関する附属書の締結

・両大学間の国際交流協定に基づく学生交流に関する附属書を令和4年2月3日付で締結した

各種委員会の開催

・自己点検評価委員会、外部評価委員会、及び事業推進委員会を開催し、令和3年度の実施状況の総括・評価を行った

【成果】

- ・ナイロビ大学を特別聴講生として受入、オンラインでの講義受講・単位付与が可能となった
- ・自己点検評価書を作成し、同評価書に基づき外部専門家から指導・助言を受け、次年度に向けてプログラムの改善を行うことが出来た

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

海外危機対応マニュアルの作成

危機管理体制強化のため、昨年度作成した留学危機管理マニュアルに対応したチェックリストを元に「海外危機対応マニュアルを」作成し、危機発生後にポイントを押さえて的確に行動が出来るようにした。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・実施した各取り組みについて、プログラムウェブサイト上で公開している

■ グッドプラクティス等

課題解決力醸成ワークショップの実施

・ケニアを拠点に予防医療等のサービスを展開する日本企業と協働し、ケニアのOne Healthをテーマに、現地の大学院に在学中の日本人学生からの講義や同社現地スタッフのインタビューを通して、現地の課題解決策をまとめることを内容としたワークショップを実施した。



〈課題解決力醸成ワークショップ実施画面〉

【成果】

- ・学生の最終報告では、ユニークな課題解決策が発表された
- ・参加学生は、ケニアへの関心が高まることに加え、能動的に学ぶ力を養成することができた